

## 日本語敬語の体系・仕組みと誤用, および日韓敬語の対比

羅 聖淑

### Japanese honorific forms and their improper usage: Contrastive studies of Japanese and Korean honorific expressions

Rah Sung-sook

#### Abstract

In this paper, I describe the system and structures of Japanese honorific forms and their improper usage by the Japanese, particularly by young people. Furthermore, I contrast the system and structures of Japanese honorific expressions with Korean. The system and structures of Japanese honorific expressions are more complex compared to those of Korean. In recent years, many young Japanese people appear to use the honorific forms improperly. The reasons behind their improper use of honorific forms are as follows:

First, the system and structures of Japanese honorific forms are very complex.

Secondly, many young Japanese have low confidence in correctly using those forms but they still try to use them as politely as possible. Such cases lead to confusion about the proper use of honorific forms.

The system and structures of honorific forms in Korean are not as complex as those in Japanese.; therefore, Korean seldom make mistakes in using them. However, they are very careful about choosing the correct form to address to their interlocutors.

#### 1. はじめに

敬語はコミュニケーションの潤滑油的な役割を果たしており、特に相手を気にする日本の社会において、場面や状況に合った敬語の運用が求められる。しかし周知のとおり、近年若者を中心に敬語の誤用が問題視されている。本稿(注1)では、まず日本語敬語の体系と仕組みについて記述および解説をした後に、2016年6月に敬語の誤用について行ったアンケートの結果を分析しながら、何が敬語の基本ルールからずれて問題になっているかを探ってみたいと思

う。そして、最後に日本語と韓国語の敬語の相違点および類似点について述べることにする。なお、本文の中に出てくる例は作例もあるが、基本的に筆者が直接またはテレビなどで見聞きしたものである。また、日韓の敬語については羅(2004)(2008)を参考にした。

#### 2. 日本語の敬語体系

日本語の敬語は周知のとおり、従来は丁寧語・尊敬語・謙譲語の3分類とされていた。しかし平成19年(2007年)文化審議会答申の「敬語の指針」によると、「丁寧語」、「尊敬語」に、

謙譲語を「謙譲語Ⅰ」と「謙譲語Ⅱ」に分け、それに従来は丁寧語として扱われていた「美化語」が加えられ、敬語の体系が5分類となった。しかし、その後9年も経った現在も一般的に敬語の3分類は認識しているものの、5分類を認知している人はそう多くない。筆者は大学で敬語についての講義を行う前に確認するが、3分類は認知していても5分類を認知している学生はほとんど見当たらなかった。それは高校までの国語の時間に5分類については学んでいない場合であろうと思われた。本稿では「敬語の指針」と菊地（2010）を参考にしながら5分類にしたがって解説し、論じることにする。

## 2.1 丁寧語

「丁寧語」とは、話し手・書き手が聞き手・読み手に対して、行為や事柄等について丁寧に述べる敬語である。そのため「聞き手敬語」とも呼ばれる。丁寧語は用言の述語に丁寧体語尾「-です」・「-ます」や「-(で)ございます」を用いてあらわす。なお、本稿では敬語の5分類のそれぞれ下位分類を便宜上「～形」であらわすことにする。では、丁寧語について詳しく見てみよう。

### 2.1.1 です・ます形

#### 2.1.1.1 ます形

まず「ます形」の例を見てみよう。

- (1)外を見ます。(「見る」の連用形「見」+「-ます」)

スープを飲みますか。(「飲む」の連用形「飲み」+「-ます」)

ご飯を食べましょう。(「食べる」の連用形「食べ」+「-ます」)

(1)で見えるように、「動詞の連用形」に丁寧体語尾「-ます」を付け、「連用形+ます」の形で

丁寧形がつくられる。したがって、動詞の丁寧体は「-ます形」で表すことができる。

なお、「-ます」の前には必ず動詞の連用形があらわれるので、日本語教育では「連用形」を「ます形」と呼ぶ。

#### 2.1.1.2 です形

「です形」の例から見てみよう。

- (2)これがこの科目の教科書です。

オリンピックでメダルを取るためには並大抵の努力が必要です。

- (3)今日はものすごく暑いですよ。

このスイカはとても甘いですね。

- (4)窓から見える景色がとてもきれいです。

教室が静かですね。

(2)のように名詞、(3)のように形容詞、(4)のように形容動詞には、語尾「-です」を付けて丁寧語がつくられる。これらの品詞については2.1.2で見えるように、「(で)ございます形」も存在する。

なお、「です形」・「ます形」の文体を合わせて「です・ます体」と呼ぶ。また日本語教育では、「暑い」、「甘い」のように、語尾が「-い」で終わる形容詞を「い形容詞」、「きれいな」「静かな」のように、連体形が「-な」で終わる形容動詞を「な形容詞」と呼ぶ。

### 2.1.2 (で)ございます形

#### 2.1.2.1 でございます形

「でございます形」の例を見てみよう。

- (5-a)こちらが前菜でございます。(名詞+で  
ございます)

- (5-b)おっしゃった通りでございます。(名詞  
+でございます)

- (6)町中がとても静かでございますね。(形容

動詞＋でございます)

(5-a,b)で見るように名詞, (6)で見るように形容動詞には, 「です・ます形」より敬意の程度の高い「でございます形」が存在する。「でございます形」は堅い場面で用いられる。注意すべきは, 「でございます形」は(5-a,b)のように物事や事柄には用いるが, (7)のように敬語を用いるべき人物には用いないことである。この場合は次節で見る「尊敬語」を用いた「-でいらっしゃる」(例(7'))のような表現が適切である。

?(7)木村先生は大学の恩師でございます。

(「?」については(注2)を参照)

(7')木村先生は大学の恩師でいらっしゃいます。

なお, (5-a)の「こちら」は「こち」を改まっただけであらわした語である。このような改まった言葉を「改まり語」と呼ぶ。その例を(8)でもう少し示しておこう。

(8)どっち⇒どちら	さっき⇒先ほど
後⇒後ほど	少し⇒少々
どんな⇒どのような	今日⇒本日
きのう⇒昨日	あした⇒明日
去年⇒昨年	

### 2.1.2.2 ご致します形

菊地(1997:367)によると, 「形容詞＋-ございます」の形は, (9-a,b,c)のように形容詞の語幹末母音によって三つに分類される。

(9-a)形容詞の語幹が -a/-o- で終わる場合は「-o: ございます」となる。

高い /taka-/ → tako: ございます (高こうございます)

重い /omo-/ → omo: ございます (重うございます)

(9-b)形容詞の語幹が -i- で終わる場合は「-ju: ございます」となる。

嬉しい /ureshi-/ → ureshju: ございます (嬉しゅうございます)

(9-c)形容詞の語幹が -u- で終わる場合は「-u: ございます」となる。

暑い /acu-/ → acu: ございます (暑うございます)

ただし, 「暑うございます」は, 尊敬語の接頭辞「お-」を加えて「お暑うございます」の形で用いるのが一般的である。「お寒うございます」等も同様である。しかし最近では「形容詞＋-ございます」形はあまり耳にしなくなった。

## 2.2 尊敬語

「尊敬語」とは, 話し手(側)・書き手(側)(以降「話し手側」と略していう)が, 聞き手(側)・読み手(側)(以降略して「聞き手側」という)や話題の人物である第三者(以降略して「第三者」)を高めて述べる敬語である。なお, 敬語を用いるべき人物を言及するさい, 「敬語の指針」では「相手を立てる」と表現しているが, 本稿では菊地(2010)にしたがって, より敬語にふさわしいと表現であると思われる「高める」を用いることにする。

### 2.2.1 動詞の尊敬形

#### 2.2.1.1 尊敬動詞

限られているが, つぎの(10)のように, 語自体が尊敬語の動詞がある。このように語自体が尊敬語である動詞を本稿では「尊敬動詞」と呼ぶ。

(10)いる・行く・来る⇒いらっしゃる・おいでになる

来る⇒見える  
話す・言う⇒おっしゃる  
くれる⇒くださる  
食べる・飲む⇒召し上がる・あがる  
知る⇒存ずる  
見る⇒ご覧になる  
する⇒なさる  
着る・(風邪を) ひく⇒召す

### 2.2.1.2 になる形

つぎの(11)で見るように、「お+動詞の連用形+になる」で尊敬語がつくられる。この形の尊敬語を本稿では「になる形」と呼ぶ。

- (11)「お飲みになる」, 「お読みになる」, 「お帰りになる」, 「お休みになる」, 「お書になる」, 「お待ちになる」, 「お泊りになる」, 「お乗りになる」

また尊敬語は聞き手側と第三者に対して用いる敬語であるが、それぞれの例を(12)と(13)で示す。

- (12) (話し手が聞き手の木村先生に) 木村先生はこの論文をお読みになりましたでしょうか。(「お読みになる」は聞き手の木村先生に対する尊敬語)  
(13) (話し手が聞き手の木村先生に、第三者の山田先生のことについて述べる) 山田先生はもうお帰りになったそうです。(「お帰りになる」は第三者の山田先生に対する尊敬語)

なお、本稿の例では実例であっても、場合によって聞き手は「木村」、第三者は「山田」で示すことにする。また、「動詞の連用形」については(羅2014)も参照されたい。

### 2.2.1.3 られる形

動詞が母音で終わる(母音語幹動詞)場合は「母音語幹+rareru」で、子音で終わる(子音語幹動詞)場合は「子音語幹+areru」の形で尊敬語がつくられる。このような形の尊敬語を本稿では「られる形」と呼ぶ。

#### 2.2.1.3.1 母音語幹動詞

つぎの(14)のように、母音語幹動詞の場合は、語幹に「-rareru」を付けて尊敬語がつくられる。

- (14) hajime-ru (始める) → hajime-rareru (始められる)  
oki-ru (起きる) → oki-rareru (起きられる)

#### 2.2.1.3.2 子音語幹動詞

つぎの(15)のように、子音語幹動詞の場合は、語幹に「-areru」を付けて尊敬語がつくられる。

- (15) nom-u (飲む) → nom-areru (飲まれる)  
jasum-u (休む) → jasum-areru (休まれる)  
jom-u (読む) → jom-areru (読まれる)  
aruk-u (歩く) → aruk-areru (歩かれる)  
ojog-u (泳ぐ) → ojog-areru (泳がれる)  
hanas-u (話す) → hanas-areru (話される)  
utaw-u (歌う) → utaw-areru (歌われる)

#### 2.2.1.4 「になる形」と「られる形」

ここで「になる形」と「られる形」を比較してみよう。

- (16) この雑誌はもうお読みになりましたか。  
(17) この雑誌はもう読まれましたか。

(16)のように「になる形」は、「られる形」(17)より敬意の程度が高く、より堅い場面で用いられる。他方「られる形」は「になる形」より敬意の程度は低いものの、使う頻度はより高い尊敬語である。

また、すべての動詞が「になる形」と「られる形」になりうるわけでもない。動詞によっては「られる形」を用いると自然な表現になるが、「になる形」を用いると不自然な表現になる場合もある。つぎの例を見てみよう。

(18)一緒に踊られますか？

?(18')一緒にお踊りになりますか？

(19)駅まで歩かれますか。

?(19')駅までお歩きになりますか。

(20)毎朝公園で走られますか。

?(20')毎朝公園でお走りになりますか。

(21)どのくらい泳がれますか。

?(21')どのくらいお泳ぎになりますか。

「られる形」の(18)(19)(20)(21)は自然な表現であるが、「になる形」にすると(18')(19')(20')(21')のように不自然な表現になる。「動く」等も同様のことが言える。ここで言えることは、日常によく用いる動詞は「になる形」より「られる形」によりなじみやすいことである。したがって「られる形」より、「になる形」になじみにくい動詞がより多いことになる。

逆に、「待つ」「使う」「疲れる」等の動詞は、(22)(23)のように「になる形」にすると自然であるが、(22')(23')のように「られる形」にすると不自然な表現になる動詞もある。

(22)少しお待ちになりますか。

?(22')少し待たれますか。

(23)大変お疲れになったことでしょう。

?(23')大変疲れられたことでしょう。

また、(24)(25)の例を見てみよう。

?(24)ご迷惑をおかけになる

(24')ご迷惑をかけられる

?(25)ボールをお蹴りになりますか？

(25')ボールを蹴られますか？

(24)(25)のように語の意味によっては尊敬語の「になる形」を用いにくい語がある。(24')(25')のように「られる形」にすると、尊敬語というより、(24')は受身形、(25')は可能形のインパクトが強くなってしまう。

なお、サ変動詞は「になる形」になれず、「勉強される」のようにすべてが「られる形」で尊敬語をあらわすが、文脈によって「受身形」になったりする。

## 2.2.1.4 「なさる形」と「される形」

### 2.2.1.4.1 「なさる形」

「なさる」は「する」の尊敬語で、「お・ご+名詞+なさる」の形で尊敬語がつくられる。

このような尊敬形を本稿では「なさる形」と呼ぶ。例はつぎの(26)(27-a)(27-b)である。

(26)お電話なさる、お話なさる、ご説明なさる、ご利用なさる、ご出席なさる

(27-a)弊社の部長とお話なさいますか。

(27-b)木村様がご説明なさるそうです。

なお、「なさる形」の敬意の程度は「になる形」と同程度に高い。

### 2.2.1.5.2 される形

「される形」は、「する」を「られる形」に

した表現である。この形を本稿では「される形」と呼ぶ。つぎの例を見てみよう。

(28-a) 奥さんにお電話されますか？

先生とお話されますか。

(28-b) 木村さんの歓迎会にご出席されますか。

(28-c) 初めに神は天地を創造された。

(日本聖書協会(1987,1988):創世記第1章1節)

一般的には、「される形」は「なさる形」ほど敬意の程度が高くないと思われる。しかし「される形」は「なさる形」より堅苦しくない場面でもより気楽に用いられる尊敬語であり、使う頻度も「なさる形」より高いのではないかと思われる。また、(28-a)のように「お-漢字語」は、(28-b)のような「ご+漢字語」より「される形」になじみやすいと思われる。そして、(28-b)のように「ご+漢字語」の場合は「なさる形」がよりふさわしい場合が多いだろう。つまり、敬意をより高くあらわしたい聞き手側や第三者には「される形」より「なさる形」が好まれるであろう。

しかし、(28-c)のように神について言及するときに「なさる形」ではなく、「される形」が用いられているので、「される形」が「なさる形」より敬意の程度が低いとは言い切れないので今後の課題でもある。

## 2.2.2 名詞の尊敬語

### 2.2.2.1 「お・ご+名詞」

(29)(30)のように、名詞の前に接頭辞「お-」「ご-」が置かれ、名詞の尊敬語がつくられる。

(29) お名前、お菓子、お電話

(30) ご家族、ご家庭、ご夫婦、ご両親、ご子息、ご兄弟、ご出身、ご入学、ご卒業、

ご結婚、ご恩、ご案内、ご報告、ご面倒、ご心配、ご都合、ご清聴、ご連絡、ご来店、ご欠席、ご近所、ご立派、ご住職、ご臨終など

一般的に和語の前には接頭辞「お-」を、漢語の前には「ご-」が置かれ、(29)のように、漢字語でも日常的によく用いられる場合は「お-」が置かれることが知られている。そして日本語の中には漢字語が多いため、尊敬語として(29)のような「お-+名詞」より、(30)のように「ご-+名詞」が圧倒的に多い。

### 2.2.2.2 「お-」「ご-」以外の尊敬の接頭辞

(31)は、「お-」「ご-」以外の尊敬の接頭辞が付いている語の例である。

(31) 御(おん)- 御身、御社

御(み)- 御心、御前、御業

玉(ぎょく)- 玉稿

貴(き)- 貴社、貴校、貴殿・貴下

芳(ほう)- 芳名、芳情

尊(そん)- 尊父、尊顔

高(こう)- 高評、高配、高著

なお、「ご尊顔」「ご尊父様」「ご高著」「ご高評」「お神酒(みき)」のような語は、実際は尊敬の接頭辞の前にまた尊敬の接頭辞「お-」「ご-」を付けた形で用いられており、尊敬語が二重になっているため、二重敬語とも言える。

ここで、日本聖書協会(1987,1988)を参考にしながら、尊敬の接頭辞の実際の読み方について見てみよう。

(32-a) お住まい、お声、お心、お言葉

(32-b) 御(ご)自身、御(ご)自分

(32-c) 御(み)告げ、御(み)手、御(み)腕、御(み)業、御(み)声、御(み)心、御(み)

言葉、

(32-d)御(おん)自ら、御(おん)計らい、御(おん)守り、御(おん)慈しみ、御(おん)父、御(おん)社、御(おん)礼

尊敬の接頭辞「御-」は(32-a,b,c,d)で見えるように、「お-」「ご-」「み-」「おん-」の四つの読み方がある。その中で2.2.2.1の(30)で見たように、漢字語の前の尊敬の接頭辞を「ご-」と読む語が最も多い。つぎが(32-a)のように、和語の前にあらわれる「お-」である。

つぎに書き言葉である日本聖書協会(1987,1988)を中心に述べてみることにしよう。この文献の旧約聖書はヘブライ語、新約聖書はギリシャ語から翻訳されているので、日本語の翻訳文献とも言える。

日本聖書協会(1987,1988)には和語の前に「お-」は全く見られなく、(32-c)で見えるように、和語の前ではほとんどが「み-」で、(32-d)のように、数少ないながら「おん-」が見られる。したがって、「お-」はやはり日常生活の中でよく用いる接頭辞であろう。これについては2.5の美化語も参照されたい。聖書の敬語は主に神のことを指す場合が多いので「お-」より敬意の程度が高い「おん-」あるいは「み-」が用いられていることであろう。

また、(32-a)と(32-c)のアンダーラインが引かれている語で見えるように、一般的には「お言葉」「お声」「お心」が、同聖書では「み言葉」「み声」「み心」と記されている。そして話し言葉では尊敬の接頭辞が付かない語が、聖書では(32-c)(32-d)のように、「おん-」「み-」が付いており、訳者が神に対して最も高い敬意を示す言葉で表現しようとしていることが窺える。

### 2.2.3 形容詞の尊敬語

形容詞の尊敬語は(33-a)のように接頭辞「お-+形容詞」、(33-b)のように「お-+形容詞語

幹+-くていらっしゃる」の形であらわす。

(33-a)お忙しいなか、ご足労を煩わして申し訳ありません。

このマンションにはお偉い方が住んでいらっしゃるようですね。

彼女は本当にお優しい方でいらっしゃいますよね。

(33-b)王女のシルエットがとてもお美しくていらっしゃるわ。

なお、「こざれい」のように、接頭辞がすでについている派生語(羅(2013:42)参照)等、語によっては(34)のように接頭辞「お-」が付きにくい形容詞もある。

(34)? お小ざれい                      ? お遠い

### 2.2.4 形容動詞の尊敬語

形容動詞の尊敬語も(35-a)(35-b)のように「お-・ご-+形容動詞」、(35-c)のように「お-・ご-+形容動詞+-でいらっしゃる」の形であらわす。

(35-a)おきれいだ、おきれいな方

(35-b)ご立派だ、ご立派な方

ご誠実だ、ご誠実な方

(35-c)お静かな方でいらっしゃる

ご立派でいらっしゃる

ご誠実でいらっしゃる

### 2.2.5 副詞の尊敬語

副詞の尊敬語は(36)のように、接頭辞「お-」「ご-」を副詞の前に付けてあらわす。

(36)お早めにいらっしゃってください。

どうぞ、ごゆっくりなさってください。

お子様がご立派になりましたね。

ご丁寧にありがとうございます。  
ご一緒にいらっしやっていただけます  
か。  
ご多分に漏れず高齢化が進んでいます。

## 2.2.6 判定詞の尊敬語

判定詞「-だ・-である」の尊敬語は、(37)の  
ように「-でいらっしやる」である。

(37) こちらの方は山田先生でいらっしやいま  
す。

## 2.3 謙譲語 I

「謙譲語 I」は、尊敬語のように話し手側が、  
聞き手側または第三者に対して用いる敬語であ  
るが、尊敬語と違い、話し手が話し手側に属す  
る行為や事柄等についてへりくだる表現をする  
ことによって聞き手・第三者を高める敬語であ  
る。

### 2.3.1 謙譲動詞 I

本稿では(38)のように、語自体が謙譲語 I の  
動詞を「謙譲動詞 I」と呼ぶ。

(38) 言う⇒申し上げる  
訪ねる・尋ねる・聞く⇒伺う  
もらう⇒いただく、頂戴する  
会う⇒お目にかかる  
上げる⇒差し上げる  
知る⇒存じ上げる  
借りる⇒拝借する  
見る⇒拝見する

### 2.3.2 謙譲語 I 「お・ごする形」のつくり方

謙譲語 I の「お・ごする形」は、(39-a,b,c,d)  
で見えるように「お・ご+動詞の連用形+する」  
の形でつくられる。つぎの例を通して、謙譲語  
I の仕組みを解説しておくことにする。

(39-a) (聞き手の山田先生に) 先生、荷物を  
お持ちしましょうか。(聞き手の山田  
先生に対して用いる謙譲語 I)

(39-b) (聞き手側の社員に) その書類は私が  
御社にお届けします。(聞き手側の社  
員に対して用いる謙譲語 I)

(39-c) (聞き手の山田先生に) 木村先生には  
こちらからご連絡しておきます。(第  
三者の木村先生に対して用いる謙譲語  
I。語尾「-ます」は山田先生に対し  
て用いる丁寧語)

(39-d) (聞き手の山田先生に) 息子が山田先  
生に留学のご報告に伺うと申しており  
ました。(話し手側の息子が謙譲動詞  
I 「伺う」を用いて聞き手の山田先生  
に対して用いる謙譲語 I)

### 2.3.3 同一名詞の尊敬語と謙譲語の区別

(40-a) 本日はお招きいただきありがとうございます  
でした。  
たくさんお買いいただきありがとうございます  
ございます。

「お・ご+動詞の連用形・名詞+-いただく」  
は、(40-a)のように話し手側が聞き手側  
から恩恵を受ける場合によく用いる表現であ  
る。しかし「お・ご+動詞の連用形・名詞+  
-いただく」が、(40-b,c)のように聞き手が動  
作主である場合は尊敬語に当たり、(40-d,e)の  
ように話し手が動作主である場合は謙譲語 I に  
なる。

(40-b) (聞き手の山田先生に) 本日は構内を  
ご案内いただきありがとうございます  
でした。(「ご案内」は聞き手の山田先生に  
対する尊敬語)

(40-c) (聞き手の山田先生に) ご連絡いた



き助かりました。「ご連絡」は聞き手の山田先生に対して用いる尊敬語)

(40-d) (聞き手の山田先生に) 後ほど私から山田先生にご連絡いたします。「ご連絡」は山田先生に対して用いる謙譲語 I)

(40-e) (聞き手の山田先生に) これから私が来客を講堂にご案内いたします。「ご案内」は第三者の来客に対して用いる謙譲語 I)

なお周知のとおり、近年若者の中には、謙譲語 I を尊敬語のように用いられる場合が目立つ。その例を見てみよう。

\*(41) メールをご拝読いただきありがとうございます  
ございました。

(41') メールをお読みいただきありがとうございます  
ございました。

(41)は、謙譲語 I である「拝読」が尊敬語のように用いられている誤用である。敬語のルールにしたがった表現は、(41')の尊敬語「お読みいただき」を用いた表現である。なお、謙譲語 I が尊敬語のように用いられている例は4節の「敬語誤用」でもう少し見ることになる。

### 2.3.4 「-ていただく」

ここで「-ていただく」の丁寧語的な用法について述べておこう。

(42-a) お好きなところにお座りになっていただいても構いません。

(42-b) 駅はこの道をまっすぐ行っていただいて、T字路が出ましたら右に曲がっていただくと、すぐに見えます。

(42-a) (42-b) のような「-ていただく」は、

謙譲語 I ではあるが、話し手が聞き手から恩恵をもらっているわけでもなく、ただ控えめで丁寧に述べているだけである。したがって「-ていただく」は謙譲語 I ではあるものの、この場合のような例では丁寧語的な要素も含んでおり、「丁寧語的な謙譲語」であるとも言える。このような例は一種の過剰敬語であると言わざるを得ない。(42-a) (42-b) は、「-ていただく」を取り除いて(42'-a) (42'-b) のような表現で十分であろう。

(42'-a) お好きなところにお座りになっても構いません。

(42'-b) 駅はこの道をまっすぐ行って、T字路が出ましたら右に曲がるとすぐに見えます。

### 2.3.5 「-させていただく」とその問題点

「-させていただく」は、「-させてもらう」の謙譲表現である。つぎの例を見てみよう。

(43-a) 本日の披露宴の司会を務めさせていただきます鈴木でございます。

本日の会はこの辺でお開きとさせていただきます。

(43-b) こちらから折り返しお電話させていただきます。

明日の会合は欠席させていただきますので、よろしくお願いいたします。

「-させていただく」は(43-a)で見えるように、話し手の行為について述べる際、聞き手側からの許可を暗黙的に得られている前提で述べる場合が多い。使役的でへりくだった言い方をすることによって、コミュニケーションをより円滑に図ろうとする日本文化の一面を垣間見る表現でもある。この表現については賛否両論もあるものの、(43-a)のような宴会や、(43-b)のようにビジネス世界では定着している表現である。

しかし、つぎの例はどうだろう。

(43-c) 緊急の支援を復興庁にお願いさせていただきました。

(43-d) 最近バラエティー番組にも出させていただいております。

(43-e) Aさんの意見に賛同させていただきます。  
す。

(43-c) (43-d) (43-e)の表現は、なるべく敬意の程度が高い表現をしようとしたあまり起こる過剰敬語であると言える。このような場合は「-させていただく」ではなく、(43'-c) (43'-d) (43'-e)のような表現で十分であろう。

(43'-c) 緊急の支援を復興庁にお願いいたしました。

(43'-d) 最近バラエティー番組にも出演しております。

(43'-e) Aさんの意見にご賛同いたします。

しかし、「敬語の指針」には、『「させていただく」といった形式は、基本的には自分側が行うことを、ア) 相手側又は第三者の許可を受けて行い、イ) そのことで恩恵を受けるという事実や気持ちのある場合に使われる』と記しているが、この中で「気持ちのある」という表現は受容の枠がとても広いと思われる。その場合は(43-c) (43-d)は相手から恩恵を受ける気持ちがあったとすると過剰表現にならない。しかし(43-e)はどうだろう。これも賛同することにより相手から恩恵を受けると言う場合は過剰敬語にならない。

なお、「-させていただく」については、羅(1992: 81-84)にもふれているが、外国人の日本語学習者にとっては運用が難しい表現でもある。

### 2.3.6 「-てもらっていいですか」

ここでついでに、「-てもらっていいですか」についても述べておくことにしよう。

(44-a) 携帯電話をちょっと見せてもらっていいですか。

(44-b) もう少し前の方に行ってもらってよろしいですか。

近年若者の中には(44-a) (44-b)のように、依頼表現を本来ならば「-てください」や「-ていただく」を用いるべきところを、「-てもらっていいですか」を用いる人が増えているように思われる。これは表現が少々くどい感じで違和感を覚えるが、若者の間では話者が増えているようにみえる。これは、依頼主が遠回りした依頼表現をすることにより、滑らかなコミュニケーションを取りたい気持ちから生まれた表現ではあるが、かえって威圧的な感じがし違和感を覚える表現である。これを本来の表現にすると、(44'-a) (44'-b)のような表現になる。

(44'-a) 携帯電話をちょっと見せていただけますか。

(44'-b) もう少し前の方に行っていただけますか。

## 2.4 謙譲語Ⅱ（丁重語）

謙譲語Ⅱは、話し手側が話し手側の行為や事柄などについて、聞き手側に控えめで丁重に述べる「聞き手敬語」である。そのため、「丁重語」とも呼ばれる。謙譲語Ⅰの場合は話し手側が、聞き手側または第三者の行為や事柄について述べる際、その人物を高めて述べる敬語であるが、謙譲語Ⅱは、話し手側の行為や事柄などを聞き手側に対して単に丁重に述べる敬語である。

#### 2.4.1 謙讓動詞Ⅱ

(45)は動詞自体が謙讓語Ⅱである動詞の例である。このような動詞を本稿では「謙讓動詞Ⅱ」と呼ぶ。

- (45)する⇒いたす  
言う⇒申す  
いる⇒おる  
行く・来る⇒参る  
知る・思う⇒存じる

#### 2.4.2 名詞の謙讓語Ⅱ

(46)(47)は名詞の謙讓語Ⅱの例である。

(46)接頭辞をつける謙讓語Ⅱの例（主に書き言葉に用いる例である）

愚－愚見, 愚息, 愚策, 愚作, 愚案  
卑－卑見  
寸－寸志, 寸書  
小－小生, 小杜  
拙－拙宅, 拙著  
弊－弊社

(47)接尾辞を付ける例

ども；私ども      ら；社員ら

(46)で見ると、名詞の謙讓語Ⅱは主に接頭辞を用いるが、(47)のように、接尾辞を用いる場合もある。これらの名詞は話し手側のことを控えめに述べることによって聞き手側を高める働きをする。

なお、「ごもっとも」のように謙讓語的な意味をもつ副詞もある。

#### 2.4.3 「お・ご+いたす」

(48)の「お・ご+いたす」では、謙讓語Ⅰに謙讓語Ⅱが被っているが、日常に非常によく用いられる敬語である。

(48)ご説明いたします（ご説明する（謙讓語Ⅰ）+いたす（謙讓語Ⅱ））

ご案内いたします（ご案内する（謙讓語Ⅰ）+いたす（謙讓語Ⅱ））

菊地（2010:149）によると、一つの語について、同じ種類の敬語を二重に使ったものを「二重敬語」としている。しかし、この表現を謙讓語Ⅰと謙讓語Ⅱと分けなくて一つの謙讓語ととらえた場合は定着した二重敬語になるが、5分類で考えると別々の敬語であるため、そもそも二重敬語にならない。つぎの例を見てみよう。

(49-a)次に参る特急電車はこの駅を通過いたします。

(49-b)みなさん、お静かにいたしましょう。

(49-a)のような例は、話し手側に属する会社の電車であることと解釈すると謙讓語Ⅱになるが、(49-b)のように、話し手側のことでなくても丁寧に述べるさい謙讓語Ⅱを用いるときもある。

#### 2.4.4 謙讓語Ⅰと謙讓語Ⅱ

前述のように、謙讓語Ⅰは聞き手側または第三者に対して用いる敬語であるが、謙讓語Ⅱは基本的に話し手側のことを聞き手側に丁寧に述べる敬語である。では、つぎに謙讓語Ⅰ・Ⅱの誤用の例を見てみよう。

\* (50) (先生に) 私は母を京都観光にお連れしました。

(50') (先生に) 私は母を京都観光に連れて参りました。

(50)は身内の第三者である「母」に対して謙讓語Ⅰが用いられているため敬語の誤用にあたる。これを(50')のようにし、母に対して敬語

を用いず、聞き手に対して丁寧に述べる謙讓語Ⅱを用いると敬語のルールにあった自然な表現となる。

## 2.5 美化語

「美化語」とは、ものごとを美化して述べることばであり、聞き手を高める語ではない。美化語を用いることにより話し手が聞き手に上品な印象を与え、話し手の品を保つ効果がある。そして敬語を用いるべき聞き手に対しては基本的に美化語を用いる。美化語は他の敬語と違い、日常会話の中で自分のことやウチ側の目下の人に対しても用いられるので、他の敬語とは異なる特徴をもつ。

### 2.5.1 美化語のつくり方

美化語は(51)(52)で見えるように、基本的に接頭辞「お・ご-」を付けであらわすが、ほとんどの場合「お-」が付く。

- (51) ご祝儀, ご挨拶, お米, お粥, ご飯,  
お水, お酒, お醤油, お飲み物, お顔,  
お耳, お口, お鼻, お話, お席, お金,  
お花, お葉, お箸, お皿, お店, お家,  
お山, お寺, お墓, お手洗い, お美しい,  
お安い, お静かに

前述のように、一般的に漢字語の前は接頭辞「ご-」、和語の前は「お-」が置かれるが、美化語の場合は(52)のように、話し言葉でよく用いられる漢字語の前に「お-」が付く語が多い。

- (52) お食事, お約束, お留守, お弁当, お電話,  
お菓子, お風呂, お正月, お料理,  
お茶, お醤油, お荷物, お茶碗, お洋服,  
お財布, お大根, お椅子, お玄関

ただし、高齢層特に男性の中には「お大根」

「お椅子」のような美化語について、あまり芳しく思っていない方々もいらっしゃる。『最近の人は何でもかんでも「お」を付けていて何だかわけがわからない』のような批判の声も耳にする。

### 2.5.2 美化語の特徴

つぎの例から美化語の特徴をもう少し見てみよう。

- (53-a) (母親が自分の子供に風呂に入るように言うとき) 早くお風呂に入って。  
(53-b) (女性の先生が子供たちに) お静かに!  
(53-c) (大人が、泣かず元気に動く赤ちゃんを見て) ご機嫌ですね。  
(53-d) (家を訪れた女性の客が) お玄関が広いですね。

(53-a)は話し手がウチ側の目下の人にも用いる美化語の例である。(53-b)(53-c)は大人が目下の人に用いる美化語の例である。なお、(53-b)は副詞の美化語の例でもある。また、(53-a,b,c,d)のような例を見ると、美化語は女性が用いる場合が多いと言える。つまり、美化語は敬語の分類の一つではあっても聞き手側を高めるわけでもないの、敬語とは言にくいところでもある。菊地(2010:107)では「美化語を狭義の敬語に入れず「準敬語」とでも呼ぶのがよいと考える」と述べているが、このような例を見ると、筆者もその呼び名にうなずくところである。

### 2.5.3 常に接頭辞「お・ご-」と共に用いる美化語

美化語の中には(54)のように、常に「お・ご-」が付き一つの語のようにになっている語が数多く存在する。主に日常生活でよく用いる語

である。

### 3. 二重敬語

- (54) お茶, お椀, お玉, おにぎり, おかわり,  
おかず, お新香, おやつ, おしぼり,  
お祝い, お年玉, お守り, お参り,  
お経, お悔み, お使い, おてんば,  
おそろい, お返し, おさらい, お辞儀,  
お産, おねだり, おしゃれ, ご飯,  
ご祝儀, ご馳走, ご機嫌

逆に(55-a)のように「お・ご-」が付かない語もある。そして(55-b)のように, すでに尊敬の意味を含む語には「お・ご」が付かない。

- (55-a) \*お公園, \*お机, \*お本棚, \*おまな板  
(55-b) \*お(ご)先生, \*お(ご)首相, \*お(ご)大統領,  
\*お(ご)議員, \*お(ご)弁護士,  
\*お(ご)牧師, \*お(ご)僧侶, \*お(ご)社長

#### 2.5.4 比喩による美化語

(56) は, 本来の意味を拡張した比喩によりつくられた美化語の例である。

- (56) お受験 (特に私立・国立の幼稚園や小学校, 中学校に受験すること)  
お三時 (午後三時に食べるおやつのこと)  
お鍋 (鍋の中に色々な具を入れて食べる鍋料理)

なお, 外来語には, 「おトイレ」「おズボン」のように美化語として用いられる語もあるが, 基本的にはなじみにくい。「\*おメール」, 「\*おテーブル」, 「\*おパソコン」, 「\*おベッド」とは言わない。ただし, 「おビール」は近年呑み屋など特定な場所で用いる場合もある。

#### 3.1 尊敬語の二重敬語の例

二重敬語という場合, 主に尊敬語が二重敬語になる場合である。つぎの尊敬語の二重敬語の例を見てみよう。

- (57-a) これは木村先生がお書きになられたものでしょうか。  
(57-b) 山田先生, この本お読みになられますか。  
(57-c) 先ほど議員がおっしゃられた通りでございます。

(57-a) (57-b) は, 尊敬語の「になる形」と「られる形」が二重になっている二重敬語である。そして(57-c)は, 尊敬動詞「おっしゃる」と尊敬語「られる形」の二重敬語になっている。また(58)の例を見てみよう。

- (58) 12時にご予約のお客様がお見えになりました。  
(尊敬動詞「見える」と尊敬語「になる形」の二重敬語)

「敬語の指針」に, (58)のように二重敬語になっても社会習慣的に定着している場合は許容されると記しているが, これにしたがうと二重敬語であるからといっても, すべてが敬語のルールに違反しているわけでもないことになる。

#### 3.2 謙譲語の二重敬語の例

謙譲語の二重敬語というと, 「お・ご-+する」と「いたす」が二重になるということが問題視されるが, 実際はどうだろう。つぎの謙譲語の例を見てみよう。

- (59-a) 今後ともよろしくお願いいたします。  
(謙譲語Ⅰ「お願いする」+謙譲動詞Ⅱ「いたす」)  
(59-b) 後ほどお伺いいたします。  
(謙譲語Ⅰ「お伺いする」+謙譲動詞Ⅱ「いたす」)

前述のように、(59-a) (59-b)は、謙譲語Ⅰの「お・ごする形」と謙譲語Ⅱの謙譲動詞Ⅱ「いたす」が用いられているが、敬語の三分類に従えば両方とも謙譲語となり、二重敬語にあたるが、敬語の5分類で解釈すると二重敬語にならないことになる。

なお、菊地(2010:149)に、「お伺いいたす」を定着している二重敬語と記されているが、敬語5分類から考えると、これはそもそも二重敬語にあたらない。「お・ごする形」は謙譲語Ⅰであり、「いたす」は謙譲語Ⅱであるので、それぞれが種類の異なる敬語であるからである。

### 3.3 敬語連結

「敬語の指針」によると、二つの敬語が接続助詞「て」でつながっているものを「敬語連結」という。したがって、つぎの(60-a) (60-b) (60-c) (60-d)のような例は敬語連結であり「二重敬語」にならない。

- (60-a) 木村先生は今お昼ご飯を召し上がって  
いらっしゃいます。  
(尊敬動詞「召し上がる」と「いらっしゃる」の敬語連結)  
(60-b) 素敵な着物をお召しになっていらっ  
しゃいますね。  
(尊敬動詞「召す」と「いらっしゃる」の敬語連結)  
(60-c) 外部の先生方に大学内をご案内して差  
上げました。  
(謙譲語Ⅰ「ご案内する」と謙譲動詞

- Ⅰ「差し上げる」の敬語連結)  
(60-d) 母が先生によろしくと申しております  
た。  
(謙譲語Ⅱ「申す」と謙譲語Ⅱ「おる」の敬語連結)

## 4. 敬語の誤用

周知のとおり、近年若者を中心に敬語の誤用が指摘される場合がたびたびある。筆者は2016年6月に18歳から22歳までの大学生239名を対象に敬語の誤用が起こりやすいと思われる設問18問を出し、敬語として適切だと思われるものを選ぶように指示した。実際はすべての設問が敬語の基本ルールに反しているものであったが、正答とされた割合が思ったより高かった。紙面上その中で11問を取り出し、論じてみることにする。かつこの中は正答とした人のパーセンテージを示してある。なお、設問は筆者がテレビなどで見聞きしたものである。

では、設問(1) (2) (3)から見てみよう。

- (1) これから円高が進まれることでしょう。  
(22.6%)  
(2) バスが完全にお止まりになるまで座席から離れないでください。(15.1%)  
(3) ガソリンが一杯入られました。(18.8%)

(1) (2)は、それぞれ話題の「円高」「バス」に敬語が用いられている。これらは高められる人物でもないにもかかわらず、それぞれ尊敬語「進まれる」「お止まりになる」が用いられている誤用の設問である。(3)は車の所有者に対して尊敬語を用いたつもりが「ガソリン」に対して用いてしまった誤用の設問である、なお、筆者は20年以上も前にこれらの設問のような誤用に気づき驚いたことがある。

この中で(2)を正答とした正答率が最も低いのはおそらく、敬意の程度が高い「になる形」

が用いられているので違和感が大きかったであろう。それに対して、(1)(3)は「になる形」より敬意の程度が低いと思われる「られる形」が用いられているので、違和感がより少ないと思われるのではなかろうか。いずれにしても15%以上の人がこれらの設問の表現が誤っていると認識していないことになる。正しくは(1')(2')(3')のように尊敬語を用いず、「進む」「止まる」「入りました」のような表現になる。

- (1')これから円高が進むことでしょう。  
 (2')バスが完全に止まるまで座席から離れないでください。  
 (3')ガソリンが一杯入りました。

設問(4)(5)(6)を見てみよう。

- (4)(来客に) 会議の場所は受付で伺ってください。(54.8%)  
 (5)(来客に) 資料は受付で頂いてください。(51.4%)  
 (6)(聞き手の先生に) 先生が申されたとおりで。(19.2%)

(4)(5)は、主にソト側の来客である聞き手に対してそれぞれ謙譲語Ⅰ「伺う」「頂く」が用いられ、(6)は、聞き手の先生に対して謙譲語Ⅱが用いられているうえ、謙譲語動詞「申す」を尊敬語の「られる形」にして「申される」となっているので、三つとも敬語の基本ルールに反し誤用にあたる設問である。(4)(5)は回答者の半数以上が、謙譲語Ⅰである「伺う」「いただく」を尊敬語として認識していることになる。(6)は「先生」と謙譲語「申す」の結びつきに違和感を覚え間違っていると認識し、正答とした人が(4)(5)より少ないと思われる。正しくは(4')(5')(6')のように、尊敬語を用いた表現になる。

- (4')会議の場所は受付でお尋ねください。  
 (5')資料は受付でお受け取りになってください。  
 (6')先生がおっしゃったとおりで。

設問(7)(8)(9)は、尊敬語が二重になっている二重敬語の設問である。

- (7)コーヒーをお飲みになれますか？  
 (51.4%)  
 (8)今先生がおっしゃられたとおりで。(63.1%)  
 (9)メニューをもう一度ご覧になれますか。(67.8%)

(7)は尊敬語の「になる形」と「られる形」の二重敬語になっている。(8)は尊敬動詞「おっしゃる」と「られる形」の二重敬語であるが、堅い場面で中高年層の人がたびたび用いる表現である。(9)は尊敬動詞「ご覧になる」と「られる形」の二重敬語になっている設問である。また(8)(9)のように、「尊敬動詞」と「られる形」が二重になっている語は、両方の結びつきがより強いと思われるので違和感が少なく、正答とした回答者が多かったことであろう。

また、三つの設問とも正答とした人が50%以上もあり、かなりの人が二重敬語という認識を持たずに、敬意の程度が高い表現として認識していると思われる。つまり回答者はなるべく高い敬意を含む表現が、よりレベルの高い敬語であるという心理的な働きがあったからであろう。正しく敬語のルールにしたがった表現は、それぞれ(7')(8')(9')のような表現になる。

- (7')コーヒーをお飲みになりますか。  
 (8')今先生がおっしゃったとおりで。  
 (9')メニューをもう一度ご覧になりますか。

設問(10)を見てみよう。

(10)うちの店長がよろしくと、おっしゃって  
いました。(25.9%)

(10)は、たとえウチ側の人が目上の人であっても、ソト側の人にウチ側の人を言及するときは敬語を用いない、という日本語の敬語の基本ルールに反しているため誤用に当たる設問である。しかし正答とした人の比率が思ったより高かった。アルバイトをする学生からみると、店長の職階が本人より高いと思われるので、つい尊敬語が用いられている表現が正答だと思われたのではなかろうか。正しくは謙譲語Ⅱを用いた(10')のような表現になる。

(10')うちの店長がよろしくと、申しており  
ました。

さらに、(11)を見てみよう。

(11)どうぞお食べになってください。  
(30.5%)

(11)は「食べる」を「になる形」にした設問である。尊敬動詞「召し上がる」があるにもかかわらず、「お食べになる」が正しい表現であると思っている人が意外と多かったことには驚きである。言うまでもなく尊敬動詞「召し上がる」を用いて(11')のような表現が正しい表現である。

(11')どうぞ召し上がってください。

以上、(1)から(11)の設問回答の誤用比率をまとめると図のようになる。

繰り返しになるが、アンケートの結果を図で見ると、(4)(5)のそれぞれの「伺う」と「頂く」を正答とした回答者が50%以上である。そして(7)(8)(9)の二重敬語を正答とした回答者も50%以上、特に(7)(9)の「尊敬動詞」と「られる形」の二重敬語は60%以上もあり、これらの表現がかなり社会に浸透していることが窺える。また、かなりの若者が敬語の使い方に自信がないことから、正しいかどうかを認識することなくなるべく高い敬意を含む表現をしよう

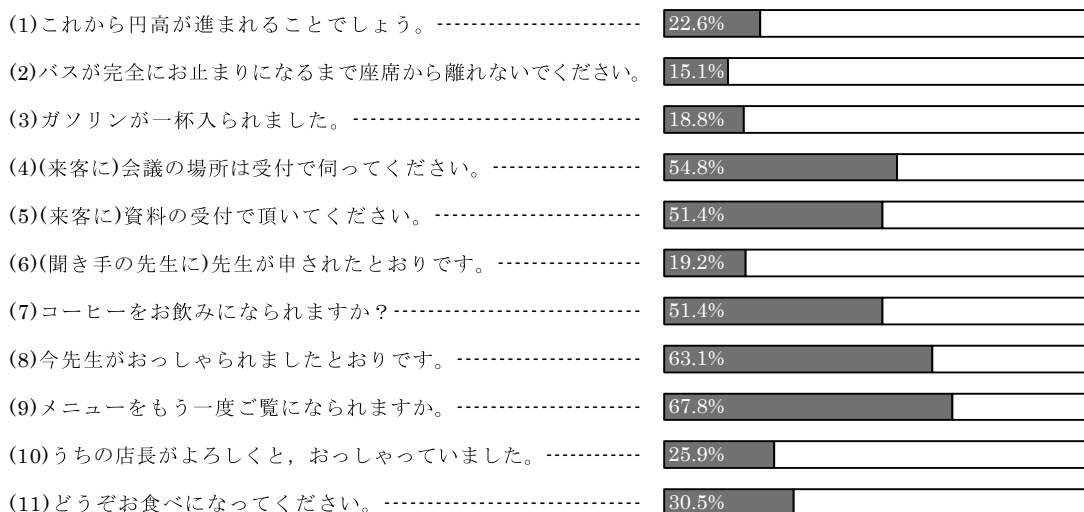


図 敬語の誤用 アンケート結果



するあまり、誤用にも気づいていないのではなからうか。謙讓語 I を尊敬語のように使う誤用が特に浸透しているように思われる。正しい敬語を習得することがなければ、そもそも何が誤用であるかさえ認識していないかも知れない。今後敬語の教育に力を注がないと、現在の誤用が将来正しい敬語になってしまう恐れもある。ただし言葉の歴史の中ではこのような例が繰り返されてきたこともあるため、敬語の問題も自然な成り行きであるかも知れないという思いもないわけでもない。

## 5. 日韓敬語の相違点と類似点

この節では、羅 (2004, 2008: 203~207) を参考に日韓敬語の相違点と類似点について論じてみることにする。

### 5.1 日韓敬語の仕組みの相違点

周知のとおり、韓国語も日本語のように敬語が発達している言語である。しかしその仕組みは大きく異なる。

第一に、日韓敬語の基本的な使い方が異なる。ここまで見てきたように、日本語の敬語の決め手は、聞き手または第三者が、話し手のウチ側の人か、ソト側の人かによって使い方が大きく異なる。つまりウチ側の人のことをソト側の人に言及する際、日本語では基本的に敬語を用いないことである。しかし、つぎの韓国語の例を見てみよう。

(1-A) : 아빠 집에 계시니? [アパ チベ ケシニ?]  
「お父さん家にいらっしゃる？」

(1-B) : 네, 계세요. [ネ, ケセヨ] (はい, いらっしゃいます. (逐語訳))  
「はい, います・おります」

(1-B)のように、韓国語は外部の人に身内の父親を言及する際、尊敬語を用いて目上の父親

を高める。内側においても同様であり、敬語を用いる相手には常に敬語を用いることである。これは金田一 (1942) でいう「絶対敬語」にあたる。これに対して、日本語は同じ人でも場面によって敬語を用いたり、用いなかったりするので「相対敬語」という。しかし、羅 (2004, 2008:217) のように、普段は夫に敬語を用いない妻が、夫の両親の前では敬語を用いることもある。これは場面によって異なる待遇表現をすることになり、日本語のような相対敬語的な面もあることになる。

(2-A) : 사장님 계십니까? [サジャンニム ケシムニカ?]  
「社長さんいらっしゃいますか。」(社外または社長の親からの電話)

(2-B) : 네, 계십니다. [ネ, ケシムニダ] (はい, いらっしゃいます. (逐語訳)) (会社で電話を受けた人) 「はい, おります。」

韓国語の場合は、(2-B)のように、身内の人であっても目上や職階の高い人であれば、その人を言及するさい常に敬語を用いる。つぎの日本語の例を通して日韓の敬語文化の違いをもう少し見てみよう。

羅 (2004, 2008:215) によるつぎの例を見てみよう。日本の病院などで若い看護師が年配の患者さんに、「ここでちょっと待っててね。」のように、ぞんざい体で話す場合がある。しかし、年齢が敬語の決め手となる韓国語においては基本的に年長者には敬語を用いることになっているので、韓国語の母語話者から見ると大変違和感を覚えるだろう。ちなみに、日本でそのような言葉遣いをする当の本人は親しみを込めているつもりであろうが、話かけられる患者さんは、不愉快に思うようである。

別の例を見てみよう、以前お店でアルバイト

をしている日本の学生を対象に調べたことがあるが、その中で、店に先に入った高校生が、後から入った大学生にぞんざい体を用い、その大学生は先に入った高校生に敬語を用いることであった。勿論その大学生は心の中では面白くないが、仕方がないと思っていたとのことであった。しかし、もし韓国で様なことがあった場合は喧嘩になるだろうし、基本的にそのようなことは起こらない。年齢を重ねる韓国では後から入っても年長者であれば敬語を用いるからである。

第二に敬語の体系を対比してみよう。

まず韓国語は聞き手によって使い分ける丁寧語が日本語より多いので、聞き手によって使い分けをしなければならない。

つぎに尊敬語を見てみよう。韓国語にも語彙自体が尊敬語である語が幾つあるが限られている。そして日本語のような尊敬語をつくる接尾辞はあるが、つくり方が極めて簡単である。つまり動詞の語幹末が、①母音、あるいは子音‘ㄷ’であるか、②‘ㄷ’以外の子音であるかによって、それぞれ尊敬接尾辞①には「-시-」を、②には「-으시-」を付けて規則的につくられる。しかし日本語の場合は2.1.2で見たように、尊敬語のつくり方が幾つもあり、韓国語よりはるかに複雑である。

さらに、謙讓語については、韓国語は語彙自体が謙讓語である語が幾つあるだけで、謙讓語をつくる仕組みを持たないが、日本語は謙讓語Ⅰのように、つくり出すこともできるうえ、謙讓語Ⅱもあり、韓国語よりはるかに複雑である。

以上簡単に日韓の敬語の仕組みを対比してみたが、全体的に日本語の敬語の体系・仕組みは韓国語よりはるかに複雑である。そのため若い日本語母語話者も敬語に慣れるまでには誤用が起こるのも十分にありうるであろう。ましてや非母語話者の日本語学習者にとって日本語の敬

語が難しいことは言うまでもない。ちなみに韓国語の母語話者にとって韓国語の敬語の誤用は基本的に起こりにくい。

第三に、荻野他(1991:18)にも載っているように、日本語は父母に対する敬意の程度がかなり低い反面、韓国語は日本よりはるかに高い。このことも韓国語は年齢が敬語の決め手となることを裏付けている。

また、日本では、子供に対する話し言葉はぞんざい体であっても、子供が海外などに行って家を離れているときなどで手紙や葉書を書く場合丁寧体を用いることがあるが、韓国では普段と同じようなぞんざい体を用いる。しかし、最近では日本でもメール、ライン等を利用する機会が多くなり、待遇表現も簡略化されている。

## 5.2 日韓敬語の仕組みの類似点

日韓の敬語の類似点はまず、両言語とも敬語が非常に発達していることと、体系において、丁寧語・尊敬語・謙讓語が存在することである。敬語行動から見ると、日韓共に社会的地位の高い人や初対面の人に対して最も丁寧な言葉遣いをし、同級生、弟や妹に最も敬意の程度が低い言葉遣いをすることである。そして両言語において基本的に会議など改まった場面でも敬意の程度の高い言葉遣いをすることである。

## 6. おわりに

以上、日本語の敬語体系と仕組みおよび誤用、そして日韓敬語の相違点と類似点について論じてきたが、やはり日本語の敬語の体系・仕組みは大変複雑である。そのため、しっかりと敬語の学習および習慣化しないと誤用も起こりやすい。また、日韓敬語の相違点・類似点について概略的に述べてきたが、日本語の場合は敬語の誤用が問題になるほど敬語の仕組みが複雑である。しかし韓国語は聞き手敬語が日本語より豊かではあるが、体系・仕組みは日本語

より簡単であり，敬語の誤用の問題が起こりにくいことが改めて確認できた。

### 注

- (注1) 本稿は，筆者が2015年に法政大学で「日本語の敬語」について行った講義ノートの内容に手を加え整理したものである。また敬語の学習を必要としている学生を含め，若者に少しでも役に立てればという思いで書いてあるため，解説的な部分も多く含まれている。
- (注2) 「?」は非文法的ではないが，表現が不自然であることを示し，後に出てくる「\*」は非文法的であることを示す。

### 参考文献

荻野綱男・金東俊・梅田博之・羅聖淑・盧顕松

(1991)「日本語と韓国語の聞き手に対する敬語用法の比較対照」『朝鮮学報』第136輯 朝鮮学会

菊地康人 (1997)『敬語』講談社

菊地康人 (2010)『敬語再入門』講談社学術文庫

文化審議会答申(平成19年(2007)2月2日)「敬語の指針」

金田一京介 (1942)『増補国語研究』八雲書林

日本聖書協会 (1987,1988)『聖書 新共同訳』日本聖書協会

羅聖淑 (1992)「韓国と日本の言語行動の違い」『日本語学』第11巻13号 1992年12月号 明治書院

羅聖淑 (2013)「日本語動詞の連用形—日韓対象研究」『日本大学歯学部紀要』第41号 日本大学歯学部

羅聖淑 (2004)『韓国語 発音と文法』白帝社

羅聖淑 (2008)『韓国語 発音と文法』—第2版— 白帝社